

第5学年1組 国語科学習指導案

場 所 5年1組教室

- 1、単元名 「話し合って考えを広めていこう」
教 材：新聞記事の投書欄から
副教材：「失敗をめぐって」 光村図書5年下巻

2、単元目標

自分の立場や意図をはっきりさせながら話し合うことによって、考えを深めたり広げたりすることができる。

- ・新聞記事などの教材を読み、自分の立場や意図を話したり、友達の考えに関心を持って聴こうとしたりしている。（関）
- ・教材の内容を的確に押さえ、それに対しての考えを持っている。また、話し 手の内容をとらえている。（読）
- ・教材の内容に沿った考えを聞き手に理解しやすいように話している。（表）
- ・丁寧なわかりやすい言葉を使って話している。（言）

3、ひびき合う子どもたちをめざすための指導の工夫

単元と指導について

本単元は、学習指導要領「A話すこと・聞くこと」の内容(1)のウ 自分の立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合うこと。に基づく。(1)で記した子どもたちの課題を解決していくことは、お互いに共感できるものを持つことができ、よりよい人間関係を築くことへと結びつく。結果として、これが目標となっている「計画的に話し合う態度」に達成していくのではないだろうか。本単元では、まず、賛成か反対かという自分の立場をはっきりさせ、その選択に基づく理由や展開などへと広げていければよい。

また、この単元を通して、子どもたちには“話し合う楽しさ・よさ”をたくさん味わって欲しいと考える。自分の考えを言うことで満足したのでは、何の意味もない。そのためには、はじめ持った自分の考えが、話し合い後、どう再構築されたのかという認識が必要である。再構築された考えの深さ・広さは、これからの学習への意欲や活動を高めていくことにつながるのではないだろうか。

再構築までの指導として、まず、“きく”ことを日頃の授業を通して大切にしていける。また、“きく”には、3段階あることを示し、内容に合わせたきき方ができるようにしてきた。

聞く・・・話を最後まで聞き、内容を理解する。

聴く・・・話の内容に関して、自分の考えを持ち、比較する。

訊く・・・話の内容に関して、自分の考えと比較し、さらに尋ねたり質問したりする。

高学年という年齢や学習の内容からも、または のきき方で学習を進めて欲しいと考えている。

< 知的好奇心について >

今回の単元では、新聞記事の投書欄を使用していきたい。新聞は授業の中でも使っており、興味を持った記事・ニュースで発表された記事・漫画・スポーツ記事などを取り上げて活用してきた。そこで、今回は投書欄を取り上げていこうと思う。

投書欄は、読者が自由に考えを発表する場であり、社会への問いかけともなっている。自分の考えを持つことができなかつたり、まとめることができなかつたりする子は、読者の考えが参考になるであろう。また、読者の考えは、賛否両論ある。賛成なのか、反対なのかという判断は、比較的しやすいと思われる。以下の手順で指導していきたい。

投書欄の内容、考えを読み取る。 に対して、自分の考えを持ち、話者の考えを聴く。 (同じところ・違うところはどこか、同じであってもそれは全く同じなのか、など) 話し合いをし、自分の考えを再構築していく。

について：担当となった話者は、新聞の投書欄から話材を探す。その話材は、その子にとって興味あるものであると思われる。そして、話者は、投稿者の考えに対してどの様な考えを持つのかをまとめておく。授業では、まず、クラスみんなに話者の選んだ投書を読んでもらい、それについての考えを持つ。その時の考えをワークシートに書き込んでおく。

について：自分の考えをまとめた後、友達のを聞いていく。その際、自分と同じ考えであっても、違う面から考えていたり、自分では気付かなかったことであつたりすることがある。また、反対に違う意見の場合、根拠となる理由は、考えを広めることに十分つながっていくと思われる。参考になる考えや話し方だと思ったものは、ワークシートにメモを残しておくようにする。

について：話し合いは、短い時間で集中して行わせたい。終わった後、自分の考えが、どの程度広がったかを確認する意味で、ワークシートに記入する。その際、たとえ考えが変わらなくても、自分の考えがさらに深まったものになっていたり、友達のを聞いて、違う観点に共感したりすることができることとよい。話し合い後のクラス全員に聴きたいところであるが、時間的に無理なので、代表して話者に聴くことにする。最後に話し合いの様子をできるだけよい点を見つけて評価していきたい。慣れてきたら、子どもたちにも見つけさせて相互評価を行い、“きく”ことも“話す”ことも向上させていきたい。

< 関わり合いについて >

話し合い活動での関わり合いは、やはり意見交換である。友達の意見に対して自分はどのような立場であるのかをはっきりして話させたい。日頃、話すことが苦手な子も、自分と同じ考えなのか、違う考えなのかということだけでも話すようになればよいと考えている。話し方としては、日本語の特徴を考慮して、結論理由の順で話すようにする。話し手の言っていることが分かりやすくなれば、きこうとする態度もよくなると思われる。この活動を日常化し、他の教科にも生かせればよいと考えている。そして、話し合いをすることの意義や楽しさを味わって欲しい。

5、指導計画（全5時間扱い）

第1次	<p>目標：話し合いの進め方を知る。 （副教材「失敗をめぐって」の話し合い方を参考にする。）</p> <p>活動：新聞記事の投書欄の読み取り・ワークシートを使用して考えをまとめる ・話し合いをする・もう一度考えをまとめる</p>
第2次	<p>目標：読者の考えと自分の考えを比較し、話し合いにより考えを深めたり広げたりしていく。</p> <p>活動：新聞記事の投書欄の読み取り・ワークシートを使用して考えをまとめる ・話し合いをする・もう一度考えをまとめる</p>
第3次	<p>目標：より分かりやすい話し方をし、話し合いによってさらに考えを広め、話し合うことの楽しさやよさを味わうことができる。 （本時）</p> <p>活動：話し手の考えを受けて自分の立場をはっきりさせ、話し合い後の考えがより広いものになっていることを確認する。</p>

4、本時（4/5時間）

（1）本時の目標

読者の考えと自分の考えを比較し、さらに話し合いにより考えを深めたり広げたりしていく。

（2）本時の展開

学 習 活 動	指導上の留意点（評価）
<p>1、新聞の投書欄を読む。</p> <p>話者から提示された投書欄のテーマとその考えについて、内容を読み取る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・どのようなテーマで、どのような考えなのかということに着目して読むように声をかける。
<p>2、自分の考えをまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・賛成か反対か、選択の理由 等を明らかにしておく。
<p>3、話者の考えを聴く。</p> <p>話者は、投書欄の読者の考えに賛成なのか反対なのかを立場をはっきりさせた上で、考えをまとめ、発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・話者は、どちらの立場であるのかをよく聞き取り、確認させる。 友だちの考えの内容を理解して聴いている。 （読）
<p>4、話し合いをする。</p>	<p>進んで自分の考えを述べ、話し合いに参加している。（関）</p> <p>自分の立場をはっきりさせ、分かりやすい話し方で、自分の考えを述べている。（表）</p> <p>友だちの考えの内容を理解して聴いている。 （読）</p>
<p>5、話し合い後の自分の考えをまとめ、話し合いを振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・最初に考えたことと比べて、話し合い後には広がりや深まりがあったかどうかをワークシートに記入し、確認する。

6、話者の意見を聴く。	・代表として、話し合い後にどのように考えが変わったかを中心に述べるようにする。
7、今日の話し合いについて	・分かりやすい話し方だったところなどを挙げ、よい点をみんなに知らせていくことで、一人ひとりの話し方を高め、次の話し合いが今日よりももっと充実したものになるようにする。

(3) 本時の視点

新聞の投書欄を使うことは、子どもたちの知的好奇心をくすぐるものであったか。

話し合いの持ち方は、子どもたち同士関わり合いができるものであったか。

話し合う前と後の子どもたちの再構築はできていたか。